



育苗用ハウスの前で。まもなく夫の靖さんも就農する予定だ

「たくさんの人に支えられて農業に取り組んでいます」と話すのは、堺市でブロッコリーやキャベツなど多品目を約33ア生産する「自然農園 Bondea」代表の井ノ本恵理子さん(51)。富田林市の「きらめき農業塾」の受講と援農活動を経て、令和5年に就農。営農開始にあたり、堺市の新規就農者支援事業を活用して育苗用ハウスを整備した。

堺市では、担い手の新規就農や経営計画の実現、規模拡大を支援するため「堺ファーマー支援事業」を実施している。同事業は複数の事業区分からなり、このうち新規就農者支援事業は担い手が営農活動を円滑に開始できるよう、農業用機械・施設の整備や農地の改良などが対象となる。

市が新規就農を後押し

堺市・井ノ本恵理子さん



発行所
大阪府農業会議
大阪府中央区農人橋 2-1-33
JAバンク大阪信連事務センター3階
電話 直通 06(6941)2701~2
http://www.agri-osaka.or.jp
発行人 中谷 清

年金の
お受け取りは
JAで

JAバンク大阪(JA/信連)

JAバンク大阪へ

検索

主な記事

◎農業委員会会長等会議で農地を
活かし、持続可能な大阪農業を
創る運動を改訂 2面

◎多様性で活動を活性化へ「期待
気にせず、活動を第3回女性委
員研修 4面

地元産いちごの魅力発信 北摂いちご祭り開催

北摂いちご生産者の会は1月10・18日、北摂管内の直売所や農園などで「北摂いちご祭り」を開催した。

期間中は完熟いちごの直売をはじめ、大福やスムージーなどの加工品販売を実施。景品付きクイズやぬり



えコーナーなど、多彩なイベントを通じて北摂産いちごの魅力を発信した。

農業塾や援農活動を通じて、先輩農家から各種の農業者支援制度があると教わった井ノ本さん。自分が営農する堺市にも活用できる制度はないか調べ、同事業を知り、申請に至った。

現在は有機栽培に挑戦中で、農薬と化学肥料の使用は控え、有機JAS資格に適合した資材のみで栽培に取り組んでいる。

今後について井ノ本さんは、「ネット販売している八品目の野菜セットを定期販売する体制を整えることが目標。1品目の欠品が販売に影響するため、生産用ハウスの整備と規模拡大に取り組み、安定して8品目を揃えたい」と話す。

(林佑)

風速計

厳冬のこの季節は、野菜の価格が乱高下しやすい時期でもある。普及員になりたての頃、先輩から「野菜農

家に貧しい人はおらん」と言われたことがある。農作物には天候等によって作柄に豊凶があり、特に野菜の場合は時期等によってその差が大きく価格も乱高下しがちだが、野菜農家は毎年作り続けることで、高騰する時もあり、期間を平均すると一定の収益が得られるものだ。しかし今は価格が高騰したり不足すると、輸入や市場間転送などに加えて、量販店等のバイイングパワー等の台頭により、農家の手取りが余り期待できない流通構造になっている。◆消費者にとっては食品価格が安く安定していることは好ましい反面、生産者にとっては所得が増えず、農業が魅力の少ない仕事になっている一因でもある。いつもながら、野菜農家にとっては、悩ましい季節である。

(光崎)